

計量器の定期検査

検査期日七月十二日

営業用取引または証明に使用する計量器「はかり、皮革面積計、自動ます」は三年毎に検査を受けなければ使用できません。今年は次により、定期検査が実施されますので必ず受けましょう。

◎検査期日及び検査会場 七月十二日(木)※午前十時～十二時まで日置町役場車庫前 ※午後一時三十分～三時三十分まで黄波戸漁業協同組合

◎検査当日には必ず印鑑と手数料をご持参下さい。

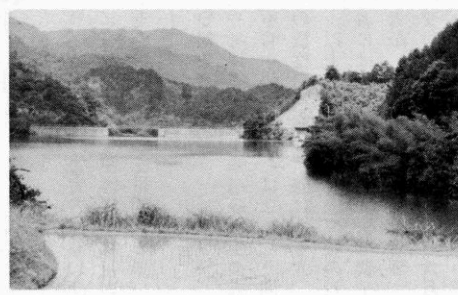
◎手数料 表を参照
 ◎この検査を受けないで計量器を取引上又は証明上に使用した時は五万円以下の罰金に処せられることがあります。
 ◎詳しいことは役場経済課へご連絡ください。

種類	型式及び能力	手数料(円)	種類	型式及び能力	手数料(円)
(1) 手動天びん	感量がひょう量の1/1000をこえるもの	230	(6) 指示はかり イイ直線目盛のもの	ひょう量 40t以下をこえるもの	10,300
	ひょう量 20kg以下をこえるもの	310		ひょう量 50t以下をこえるもの	14,100
(2) 棒ばかり	ひょう量 20kg以下をこえるもの	50	ロ 光電式はかり	ひょう量 30kg以下	600
	ひょう量 50kg以下をこえるもの	70	ハ 手動指示併用はかり	ひょう量 20kg以下	130
	ひょう量 100kg以下をこえるもの	110	ニ ばね式指示はかり	ひょう量 100kg以下	220
(3) 等比皿手動はかり		150	ひょう量 20kg以下	100	190
(4) 皿手動はかり		290	ひょう量 100kg以下	310	530
			ひょう量 200kg以下	570	750
(5) 台手動はかり	ひょう量 100kg以下	240	ひょう量 1t	1,700	3,200
	ひょう量 200kg以下	350	ひょう量 2t	3,200	5,000
	ひょう量 500kg以下	570	ひょう量 5t	7,000	8,700
	ひょう量 1t	960	ひょう量 10t	10,300	14,100
	ひょう量 2t	1,700	ひょう量 20t	18,800	
	ひょう量 5t	3,200	ひょう量 30t		
	ひょう量 10t	5,100	ひょう量 40t		
	ひょう量 20t	7,500	ひょう量 50t		
ひょう量 30t	8,700	ひょう量 50tをこえるもの			

新版 景十八日置

第12景

掛瀧川の源流・日置奥座敷と畑ダム



畑 ダ ム

ると樹海の終る頃、眼前開けてダムを発見する。このダムは、安倍村長の発願以来、三十年の歳月を

この地は「畑」「横坂」「狩音」の集落があり、掛瀧川の源流地域で日置の奥座敷といつてよからう。近世以前の歴史は不詳、萩藩毛利氏時代の給領地として畑(粟屋氏)横坂(勝屋氏)狩音(前田氏)大笹(平川氏)の名があり、当時粟屋氏の治政よく、経済、文化両面に於いて日置南部地方の重要地で人材も相当輩出していた。連山に囲まれた盆地ながら、交通交易も峠越(大内山、十楽、板持、安田、有宗等)に行われた。

現在では「畑ダム」の外に観光の魅力は少ないが、バス路線に散在する素朴な農村風景と山野菜、清澄な空気が清冽な水が都会人の魅力をそそるらしい。

扱文化財を二・三点描するとその第一は「畑ダム」

このダムは俵山から大笹トンネルを通過し急坂曲折の七曲りを下

を先祖とし、幕藩時代には十代、二五〇年にわたり庄屋を勤めた。莫大な藤津家古文書は地方史研究の貴重な資料であり、これを保存し寄付された藤津カツ子夫人の祖先崇拜と文化財愛護、温古知新の心意気は敬服の外ない。また豪壮なその家は今様に改築されず、生活上の不便を忍びつつも今日まで維持管理し続けられている。先年行われた県文化課による民家保存緊

を経て昭和47年3月に完工した。完工記念碑に橋本県知事は「土と水と光とそれら天の恵みにこたえて無限の可能にいとむものつねに時代にさきがけ自然と人の営みを結びここにあすをひろく」とダムを囲む新緑はいよいよ濃くダムは水を満々とたたえ、幽境は神秘的な感を与える。このダムの枯れざる限り、米どころ日置の繁栄はつづくだろう。

第二は重徳鉱山跡

大正初期―四、五、六年頃が全盛で坑夫町として新町、後町、カジヤ町の名があり、堅坑の深さは十五米、坑口の広さは縦、横1.5米×2.5米大鼓車で上下する外、三間梯子の組合わせなど幼稚な設備で手掘りによる重労働であつたらしい。

又鉱山主も変遷があつたと……。

昭和初年畑上の山腹にタンクスを採る重石発掘のため開発されたが貧乏のため昭和十九年頃廃坑となつたが、廃坑後の鉱害なきは幸せである。

第三は藤津文書と貴重な民家

由緒書によると大内義隆の遺臣を先祖とし、幕藩時代には十代、二五〇年にわたり庄屋を勤めた。莫大な藤津家古文書は地方史研究の貴重な資料であり、これを保存し寄付された藤津カツ子夫人の祖先崇拜と文化財愛護、温古知新の心意気は敬服の外ない。また豪壮なその家は今様に改築されず、生活上の不便を忍びつつも今日まで維持管理し続けられている。先年行われた県文化課による民家保存緊

五月雨に溢れてダムの里豊か万緑の雲集めてダムの里

吉村百泉

この地は人材の宝庫でもあつた。その筆頭に挙ぐべきものは、江原基治翁である。翁の功徳については新市赤崎神社の境内の頌徳碑に述べられているので省略する。

第五にその他

日置八幡宮の氏子、安田七重部落の因縁、大笹トンネルの開通、畑の堂、草添の寺屋敷(照光院?) 経塚山、栗踊り等々日置民俗資料の宝庫として高く評価したいところである。

畑ダムと藤津家、重徳鉱山跡を一体化した観光資源の開発、俵山湯町から大笹トンネルを越えブルライオン・カントリクラブへつなぐルートを紹介も日置町開発の上で重要ではあるまいか。羽仁記



重徳鉱山跡の斜抗口

急特別調査の対称となり専門家による調査も済んでいる。今は殆ど無くなった旧庄屋の家として是非保存対策を樹てられ度い。

第四には教育家江原基治翁